

高山西ロータリークラブ 創立1966年1月15日

例会報告 Rotary



奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 鴻野 幸泰
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 向井 正規
- 会報委員 田邊 淳

第2665回例会 令和4年5月13日
お祝い・社会奉仕委員会

<会長の時間>

4月29日から5月8日までの大型連休も終わり、久しぶりにわずかな期間でしたが高山市内もたいへんな賑わいでした。私は連休の間は地元の春の例祭があり、いくつかの地区に神社部会の役員として参向をさせていただきました。役員としては、神事の中で幣を奉る祭詞を奏す、玉串奉りて拝礼です。コロナ禍でもあり縮小しての祭りでありましたが神事は厳粛に執り行われました。

この連休の中で自分自身が一番楽しかった事は、5月8日に高山カントリーでのゴルフで岡田さん、内田さん、田中武さんと私4人でプレーした時です。そのプレー中に田中武さんと会話した中で「同じゴルフ場、同じコース、何年まわっても、上手い事いかなあ」と田中武さんに話しかけられた時気づかされたことがありました。先にお話しした神事も同じことを何回も繰り返してききましたが、ぜんぜん自分の満足できるようにできません。ロータリークラブの例会も金曜日12時半より1時半まで決められた中で例会を行っています、なかなか自分では「うまい事いかなあ」と思う事ばかりです。あと2ヵ月なんとか満足できる例会ができるように頑張ります。

<幹事報告>

◎ガバナーより

- ・ウクライナへの人道支援金のご協力のお礼とご報告
公益財団法人ロータリー日本財団へ送金 9,388,052円

◎濃飛グループ次期ガバナー補佐より

- ・2022-23年度濃飛グループガバナー補佐訪問予定日について
第1回7月29日、第2回11月18日、第4回5月以降予定
G公式訪問 9月30日、濃飛GIM 10月16日(日)

◎高山・デンバー友好協会より

- ・令和4年度通常総会の議決結果について

◎高山市都市提携委員会より

- ・令和4年度定例会の結果について

<受贈誌>

高山中央RC(会報)、ガバナー事務所(動画「ウクライナのロータリアン」について)、地区事務所(インターアクト活動計画書)、台北市松年福祉會(玉蘭荘だより)、(社)高山市文化協会(広報高山の文化No236)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
29名	-	29名	34名	85.29%

<本日のプログラム> 今月のお祝い

◎会員誕生日

塚本 直人
5. 7

◎夫人誕生日

(当日、ご自宅へ
花束をお届け)
塚本 直人
智子 さん
5. 13



◎結婚記念日 (当日ご自宅にお菓子をお届け)

折茂 謙一	S 38. 5. 6
井辺 一章	S 52. 5. 12
斎藤 章	S 56. 5. 25
堺 和信	S 61. 5. 18
新井 典仁	H 14. 5. 25
松田 康弘	H 7. 5. 14
高井 道子	S 62. 5. 25

◎出席表彰

なし

◎在籍周年記念表彰

なし

◎3ヶ月表彰

- ・遠藤 隆浩
- ・大村 貴之
- ・堺 和信
- ・鴻野 幸泰
- ・塚本 直人

社会奉仕委員会

委員長 田中 晶洋

本日は社会奉仕委員会の担当例会です。ゲストは皆さんよくご存じの岐阜県議会議員川上哲也さんです。

川上さんは現議会議員であると同時に、けやき薬局を経営されている薬剤師さん、またNPO法人Vネット理事長でもあります。Vネットとしては災害復旧のボランティアとして活動されています。2002年に災害支援のNPOを設立されて以降、国外では中国四川大地震やパキスタン地震など、国内では東日本大震災や熊本地震、そして地元高山の災害では、平成16年の台風災害で、高山市で初めての災害ボランティアセンターを立ち上げて支援活動を展開するなど、数々の被災地支援活動を行ってこられました。今日はその活動内容についてご講演頂きます。



例会報告

誰にだってできることは
必ずある
NPO法人Vネット理事長
川上 哲也 様



今日のテーマとして「誰にだってできることは必ずある」と言うテーマでお話させていただきます。国内では東日本とか熊本地震その他全国で活動させていただきました。また海外では四川の地震とかパキスタン、インドネシアの地震とかに行きまして。私のNPO法人を2001年に立ち上げて、全国の支援活動を展開しております。いくつかNPOを立ち上げたので、それをまとめてVネットという形で2020年には認定NPO法人にさせていただきました。通常のNPO法人はたくさんあるんですけど、その中でさらに厳しい審査を受けて認定NPO法人になります。認定NPO法人になると寄付金とか税額控除の有利な面も出てきます。

東日本大震災の時は現地で130日間活動して参りました。多くのボランティアが全国から集まってきてくださって、岡田賛三さんや政井さんも歩いてそこまで来てくださったと言うこともありました。宮城県の1番南の端でボランティアセンターを立ち上げたんですが、その後他の地域で展開していくわけですけども、この時の災害で大きな課題となったのは瓦礫の山の問題がありました。瓦礫となる、流されてきた家屋とかを解体して人手やあるいは重機、チェーンソーを使ったりして解体をしました。そしてきれいな更地にしていったので、この地域の瓦礫の問題は解決しました。その後南三陸町の方行きまして自衛隊また三陸町町長から相談を頂きました。自衛隊が今度撤退するので何が悩みですかと言うふうに聞いたら、風呂がなくなるんだと言うことで、お風呂を機材調達してつくりました。自衛隊と同じサイズを目指して作ったのですが、自衛隊では熊本だと「火の国の湯」、兵庫の師団だと「六甲の湯」という名前をつけますので、私たちが作ったお風呂は「はません飛騨高山の湯」と名付けました。1,000リットルの浴槽が2つ、結構カロリーを消費するのですが給湯器も全て新調して揃えました。男性用女性用それぞれ1,000リットルの浴槽が2つづつ、通常さんまとか昆布とかわかめが入るタンクを使ってお風呂をつくりました。ここのお風呂だけで7,000人の被災者が汗を流しました。全体で5カ所ぐらい作ったのでトータル20,000以上の方が入っていただいたと思います。その後岩手県でもあっかと言う地域だったので「あっか飛騨高山の湯」というお風呂を作らせてもらいました。

東日本大震災以外では熊本地震では、お父さんが亡くなった家なんですけど、そのお父さんが大切にしていた仏壇を取り出してほしいと言うことで、重機を使って活動を行いました。また九州北部豪雨災害では、自衛隊とか消防が手作業で行方不明者の捜索をしたんですが、その支援をしてほしいということで重機を使って土の中に埋まっている車両を掘り出しました。ナンバープレートを警察に照会してナンバー車の持ち主が活着しているかどうかと言うことを確認しながら、一台一台掘り出していくという作業を行いました。常に数珠を持って活動しておりました。災害以外では飛騨地域、郡上地域、東濃東部地域の障がい者の方が働く障がい福祉事業所に対して合計2,000枚以上のアクリルボードを配ると言う活動をしました。

ここから皆さんにボランティアについて考えて頂きたいと思っております。最近の災害支援活動は、災害ボランティアセンターを立ち

上げて活動するのが一般化しています。これは何故でしょうか。いろいろな理由があるんですが、災害が発生したら全国からボランティアが駆けつけます。お金も届きます。物も届きます。それぞれが勝手に気ままに活動していたら、バラバラになってしまう。偏りができてしまう。テレビで見たあの場所でボランティア活動したい。一番酷いところでボランティア活動したいと言う人が多いので人も偏ります。お金も偏ります。多いところと少ないところで100倍以上の差がありました。報道されない所にはお金も集まらない、人も集まらないと言うことが起きます。そういうことが起こらないようにコーディネートできるように、各地域でボランティアセンターを立ち上げて調整を行います。

災害が起るとボランティアセンターが立ち上がり、多くのボランティアがやってきます。そこに困ったボランティアがやってくることがあります。どんなボランティアが困ったボランティアだと思いますか。「遠いところからやってきたのだから泊まる場所、食事を手配しろ」と言うボランティアがいます。その他にも「ボランティア活動してるんだから感謝しろよ、どうしてお前は感謝しないんだ」と言う人もいます。避難所に届いた着古しの衣類を手にして受け取らない被災者を見て「どうして被災者のくせに受け取らないんだ」と言うような発言をする人もいました。ボランティアは押し付けではダメなんだ、被災された方が何を望んでいるのかに依る活動が必要で、これをやれば必ず被災者を喜ぶと思っはいけない、決めつけてはいけない。やりたい活動と望まれる活動がイコールにならない場合もあります。一言で言うと「善意」と「善」は違う。やる側は善意でやる。ところが受ける側は善として受けられない、受け取れないと言う場合があります。受ける方が善として受けられることを探してやるのが本来の支援活動でありボランティア活動であると考えています。

災害がいつ起こっても不思議じゃないと言う時代になってきています。比較的新しい家も崩れてしまったり、盛り土の道路は崩れやすいですし、砂地のようなところではマンホールも地震でよきよきと出てきます。被災地には全国から救援物資が届きます。ありがたいと思いきやそうでないものも届きます。もしかすると在庫処分かなと思われる物まで届きます。飲食関係ですと賞味期限の切れたものも届きます。まだ使えるものだったらマンなんですけど、とんでもない物まで被災地に届きます。例えば衣類関係ですと冬なのに水着が入っているとか、よれよれのスーツとか、染み付きパンツが入ってるということもあります。悲しいんですが、ボランティア精神じゃなくて家の中のいらないものを段ボールに詰めて送る方がいまだに日本国内にはいます。そして送られた支援物資は被災者に届いたのか?こんな記事があります。

『災害支援物資余る』中越地震レベル、今ではさほど大きなレベルの災害ではないと思えるようになってきましたが、そういった中越地震レベルの時でも10トントラック116台分の物資が倉庫に残っています。これ以外にも大量の物資が倉庫に残っていて、民間倉庫の保管料が1ヵ月1,000万円以上かかります。このお金はどこから出たのか、このため支援物資を売って義援金に繰り入れた自体もありますよという記事でした。

被災地へ送ったものはどうなるのか?実際に多くの方が被災地に物を送っているのですが、果たしてそういったものが本当に届いているのか?実際は被災者の助けになるものもあるんですが被災者の手に届かず処分されるものもたくさんあります。過去の災害では1億円以上のお金が物の輸送・保管・焼却処分のために使われたこともあります。復興を目指して立ち上がろうとする商店街の近くで、物を配り続ければ経済活動の妨げになってしまいます。これはパキスタン地震の時に撮った写真ですが、この彼は地震のあったところで服屋さんをやってたそうです。それで被害

例会報告

を免れた分の服をとり出して、売り始めた。そこの横で「服が届きました」と言ってタダで服を配り始めたら、彼の生活は元に戻るのか？と言うことです。

じゃあどうやって参加したらいいのかということかわからない状態の方も多いと思いますけれども、最近いろんな形で参加方法を作ろうということになってきています。その参加できる仕組みを作れば、多くの方が自分の力（スキル）を生かせるということもあります。先日出されたプレスにも載ったんですが、白川村のお風呂が焼けてそこでボランティアで木造部分と軽量鉄骨の部分は全部撤去しました。その時に活躍してくれたのが「プロボノ」と呼ばれる皆さんです。これはラテン語が語源なんですが、自分の仕事を生かしてボランティア活動する。それがプロボノと呼ばれています。この時は現地の建設関係の皆さんが非常に頑張ってくださいました。東日本大震災だと東京消防庁のOBの皆さんがこうやって頑張ってくれたりとか、この高山からもたこ焼き屋さんの多幸屋さんが現地へ駆けつけてくださったりとか、美容院K'sさんが現地でカットして下さったりとか、アイビーデンタルさんも現地で歯科治療して下さったり、当時のアルプスベルの院長先生が診察をして回って下さったりとか、そういったことでプロボノとして頑張ってくださいました。その他にも、どうやって活躍するのか、その方法を提示することによってボランティアセンターへ駆けつけて下さった方、炊き出しでがんばって下さった方、飛騨牛の炊き出しをしてくださった方もありました。歌や演芸とか高山工業高校の方が子供のおもちゃを作って提供して下さったというのもありました。その他に寄付をしてくださった方、様々な方が力を提供して下さりました。多くの支援が集まって大きな力になりました。

東日本だけではなくてこの高山の災害でもそうでした。これは下切の様子ですが、あの時も多くのボランティアが頑張ってくださいました。小学生が頑張ってくれたというのもありました。また、中学生や高校生が部活動で参加してくれた光景もありました。家族でがんばってくれたという姿もありました。子供たちでも出来る作業はいっぱいありました。大人達だけじゃなく子供達も、また高齢の大先輩方も大分頑張ってくださいました。こういったことを見て大切な事は何かのかと考えると、被災地全体の住民パワーをいかに出すかということになると思います。被災地の中学校の1学期の終業式で、皆さんにも出来ることがあるから、参加してくれと言ったことがあります。その時にここに写っている彼ら彼女らも参加してくれました。ここに写っている中学生は、夜は避難所で寝泊まりをしていて、昼はこうやってボランティアでがんばってくれている。避難所で寝泊まりをしていると、自分は被災者なんだ、助けられる側なんだと思込んじゃう人が多いんですが、そうじゃなくて避難所で寝泊まりしている、実際に自分の家もやられた被災者であっても、自分だって出来ることあるんだ、そういうふうと考えてもらえるとすごく嬉しいと思いますし、そういった避難所の子供たちが頑張っている姿を見たら、その地域の大人たちも黙ってはいません。地域の大人たちも頑張ってくれました。災害の爪痕は長く残ります。その爪痕と戦うのは、やっぱり地元の力になります。外からのボランティアの支援とかそういったものはやがて去っていきます。ですから地元の力がいかにうまく生かされて復興復旧の原動力となるのかが大きなポイントとなります。

そのキーワードは何なのかということと先ほどお話ししたように「誰にだって出来ることは必ずある」ということだと思います。自分は出来ないんだ、ではなくて、何かしら出来ることあると思います。災害が起きたとき、体を出す、現地で汗を流す、それも本当に大事ですが、それ以外にもいろんな支援活動の方法があり

ます。お金を出すそういった方法もあります。物を出す、本当にその時必要なものを提供するというのは非常に役に立ちます。情報を出す、これは現地でどんな物が必要なのか、どんな物を欲しいと思われているのかという情報を知り合いまたネットで流して頂く、それだけでもボランティアに参加しているということだと思います。その他にも色々参加方法があります。ただ残念ながら最近色んな所の被災地支援活動に出かけるんですが被災地域以外の方が他人ごとのような自治体を見ることもあります。それはどうやって参加したらいいのかわからないということだと思います。でもそれぞれが無理しない範囲の善意で参加していただいて、それをたくさん集めれば大きな力で被災者の支援を行うことが可能となります。これは最も重要な部分だと思います。「誰にだってできる事は必ずある」ということをご理解いただいて、是非この飛騨地域そしてこの高山、災害に強い街づくりと地域づくりを是非ロータリーの皆さんと一緒に進めて行けたらなというふうに思っています。どうもありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●鴻野 幸泰さん、向井公規さん

本日は社会奉仕委員会担当例会です。ゲストとしてお忙しい中お越し頂きました岐阜県議会議員川上哲也様ようこそお越し頂きました。後ほどの卓話楽しみにしておりますのでどうぞ宜しくお願いします。

●田中 晶洋さん

本日は社会奉仕委員会の担当例会です。ゲストに岐阜県議会議員の川上哲也さんにお越しいただきました。心より歓迎いたします。今日はNPO法人Vネット理事長として災害ボランティアについてのお話し楽しみにしております。

●挾土 貞吉さん

県議川上哲也様のご来訪、大歓迎致します。益々のご活躍期待しています。世直し頑張ってください。近所付き合ひ宜しくお願いします。

●田近 毅さん、内田 幸洋さん、堺 和信さん

川上哲也県議会議員様、本日はお忙しい中ご来訪頂き有難うございます。益々のご活躍を期待しております。

●阪下六代さん、米澤 久二さん

川上哲也先生のご来会を歓迎申し上げます。卓話を楽しみにしております。

●松田 康弘さん

本日、人事異動の発表がありました私の所に赤紙は届きませんでした。もうしばらく高山に居られそうで、とても嬉しく思っております。次年度も皆様よろしく申し上げます。

●塚本 直人さん

先週長女の眞子が自動車免許を取得しました。ほんの数キロでしたが助手席の私は体中に力が入り、緊張したドライブでした。ようやく親の気持ちがわかりました。それも良い思い出です。ありがとうございます。

●下屋 勝比古さん

本日別の会からの出張のため早退します。

●田近 毅さん、平 義孝さん、米澤 久二さん、田中 武さん、遠藤隆浩さん、門前 庄次郎さん、鴻野 幸泰さん、向井公規さん、下屋 勝比古さん、堀 幸一郎さん

「元気があれば何でもできる」健康に感謝してニコニコへ